

祖 神 の 松

(そじんのまつ)



【所在】

鷹栖町 21 線 9 号

【指定年度】

昭和 5 4 年

【標柱建立】

平成 4 年

古き時代を知るイチイの木

このイチイ（通称オンコという）の木は、直径 80 cm、樹高 20mを越え、根元から 2 本に分かれ、空にそびえていた。イチイとして、この大きさは近郷にも見ることはなく、推定 600 年は経っていると思われる。

この地は明治 34 年、奈良県の川崎英一が払い下げを受け、故郷で先生をしていた弟奈良之助を呼び経営を任せていた。この一帯はオンコの木が多いところで、特に大きいこのイチイは、事務所建築にあたり、庭を飾るものとして残したものである。

奈良之助は地元での教員生活から一転して厳しい北海道開拓に挑んだのであった。高砂山を麓に貯水池を設けて水田造成を図り、講組を組織して馬の導入を促進、木炭を生産して生活費を助けるなど情熱をたぎらせて開拓を進め、一方、明治 40 年 5 月には川崎教育所（後の第九小学校、大成小学校）を設けて子弟を教育、青年会の結成、更に第五部長、村議会議員など村行政にも担ったが、大正 7 年、この地を殖産会社福島徳太郎に譲り、新天地樺太（現ロシアのサハリン）に転住した。

この事務所から西に向かって江丹別芳野峠、南に向かえば山口牧場への二股道、この山道に大きな栗が捻っていた。おそらく奈良之助が故郷を偲んで植えたものであろう。この松も、奈良之助の想いを知っていても今はそれを語ろうともしない。昭和 61 年、大風で 1 本は倒れて、今は 1 本のみとなった。